

カキノハグサ *Polygala reinii* の生育環境と保全

自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

黒田有寿茂



カキノハグサ（ヒメハギ科ヒメハギ属）は近畿、東海地方に分布する日本固有の多年生草本です。本種は里山として利用されてきた二次林の林床や林縁など比較的身近な環境で見られますが、各地で減少傾向にあり、分布の確認されている府県の多くで絶滅危惧種に指定されています。本研究では、カキノハグサの保全に向け本種がどのような環境に生育しているか、野外調査と標本調査（さく葉標本の閲覧と採集地情報の収集）から調べました。その結果、カキノハグサの生育適地は二次林の中でも森林構造や土壌の発達程度の低い林であることがわかりました。カキノハグサの生育地で常緑広葉樹の繁茂が認められた場合には、伐採・刈り取りにより植生遷移の進行を抑制し、光環境の改善を図ることがその保全に必要と考えられます。



カキノハグサの生育環境

アカマツ・コナラ二次林に生育するカキノハグサ。林内は比較的明るい。カキノハグサの和名は葉がカキノ葉に似ていることから。花（目立つのはがく片）は黄色で初夏に咲く。

カキノハグサの種子

果実（蒴果）の果皮が割れ、種子が露出している。種子は茶色・球形で、長さ約 4 mm。白い房状の部分はエライオソーム（付属体）で、アリにより散布されると考えられる。

